

株式会社東京精密 2020年度(2021年3月期)決算説明会
質疑応答 要約

2021年05月10日 開催

- 本資料は、上記日時に開催された2020年度(2021年3月期)決算説明会(Web開催)の質疑応答の内容を、当社の判断で要約したものです。
 - 本資料に記載されている情報は、決算説明会開催日時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
 - なお、本資料では、半導体製造装置(または同セグメント)を「SPE」、精密計測機器(同左)を「計測」と表記します。
1. **現在の SPE 需要環境、今後期待されるアプリケーションについて、見解を聞きたい。**
 - メモリ、ロジック半導体、電子部品向けなど、全てのアプリケーションにおいて堅調といえる。今後はアプリケーションに依らずロジック系は好調を維持、更にメモリ、パワー半導体などに向けた SPE 需要の増加を想定している。
 2. **2020年度の SPE 受注残高が想定を上振れた事について、その要因、顧客の投資行動に関するコメントが欲しい。また二重発注リスクに関する当社見解を聞きたい。**
 - SPE 全般の需要が強い事に加え、中国の要因が大きい。メモリ・ロジックに加えディスクリット需要も強い。
 - また、ダイサ、グラインダの製品競争力が高まったこともあると考える。
 - 顧客からの発注タイミングは、早まっていると考えられる。一部後工程装置が長納期化していることが背景と考えられる。
 - 二重発注のリスクは否定しない。ただ、それを加味しても受注は強い状態である。
 3. **SPE の生産状況について聞きたい。**
 - プローバは10月迄、ダイサ・グラインダは年内のスロットが埋まっている。
 - 半導体不足の影響は当社にもあり、代替品の調達や設計変更などで対応している。
 4. **SPE 消耗品の売上規模を聞きたい。**
 - 前回説明会(2020年11月)以降大きな業容の変化は無く、ダイシングブレードの売上高は事業譲受時点の3倍程度になっている。研削装置の消耗品販売額が増加しており、毎月 億円単位の売上高になっている。

5. **米中貿易摩擦の影響も踏まえ、現在の中国市場に関する見解、リスクを聞きたい。**
- 米国政府より、中国前工程ファウンドリに係る規制が発表された時期は、サプライチェーンの混乱から発注キャンセルに至る話も聞かれたが、現在はそういった顧客からも新たな受注が入っている。
 - 一方で、リスクとして、半導体・電子部品メーカーの淘汰が起こる可能性、出荷納期延伸が中国 SPE メーカーへの恩恵となる可能性、更に国策で中国 SPE メーカーを優先する可能性などが考えられる。現時点では当社は技術的に優勢だが、注視する必要がある。
6. **2021 年度上期の SPE 受注高は、前半期比減少の想定だが、この兆候はあるのか？ またこの想定を上振れる場合、損益へのアップサイドはあるのか？**
- 当社の SPE 単月受注は、2020 年 11 月以降 高い水準が続き、2021 年 4 月も月次ピークを更新した。現時点で減少の兆候は見られないが、出荷納期を鑑みると、早ければ 5 月、遅くても 7 月頃には水準がいったん落ち着き、10 月以降 再度増加するものと想定している。
 - かりに想定を上振れても、上期のスロットはほぼ埋まっており、現実的には下期のアップサイドになりえる。ただし出荷が予定通り進むことが前提となる。
7. **2020 年度第 4 四半期の全社営業利益率実績に対し、2021 年度に若干低下すると予想する背景は何か。また、2021 年度のコストアップ要因があれば聞きたい。**
- 計測セグメント利益率は売上回復までは本来の実力に比して低めになること、SPE の営業利益を社内の予想レンジ範囲内で保守的に見積もっていることなどによる。
 - 台湾アプリケーションセンターの償却が始まるなど、一定のコストアップ要因はあるが、これらは業績予想に織り込んでいる。
8. **2021 年度業績予想の前提となる工場の運用、短期的な増産計画、ならびに今後の拡張計画として示されている日野工場、新たに示された飯能工場の計画などを包括的に聞きたい。**
- 足許では、生産拡充のため、近隣の倉庫に部材を移すなどの対応により八王子工場の生産スペースを確保している。
 - 2020 年 5 月に完工した土浦工場の新棟で 8 インチウェーハ対応のプロローバ、研削装置の搬送ユニットなどの生産を開始した。ユニット生産が中心で、八王子工場の補完的な位置づけで運営している。土浦の生産技術者が慣れてくることによって、今後もう更に増産することが可能になると考えている。
 - 美山工場(八王子市)は 5 年契約で借りているが、こちらもフル操業となっている。

当初計画では、2022年度末、美山工場から日野工場に移管し更に増産が可能となり、半期500億円強程度の生産高を想定していた。

- しかし、環境アセスメント許可に相当な時間を要するため、埼玉県飯能市に日野と同規模の工場を、当初の日野工場建設スケジュールのまま建設する方向で進めている。
- 中長期的に生産拡大は更に必要と考えており、日野工場の建設は飯能工場の完了後に進める予定である。

9. 計測セグメントにおけるSBSバランサ事業ならびに充放電試験システムの業容ならびに2021年度の損益見通しについて聞きたい。

- SBSバランサ事業は、当初の見通しを若干上振れて推移しており、すでに黒字運営できている。
- 充放電試験システム事業も改善傾向にある。2020年度迄は構造改革に係る費用が先行していたが、2021年度は収支拮抗、2022年度以降はEV化の流れを受け、計測セグメントの業績に貢献できる規模を目指している。
- いずれにしても両事業とも計測セグメントの利益の足かせになることは無くなったと考えている。

以上